





# 木心齋陸事



正四某 舟次及後おえ

世のいふ

後妻の子一歳ちうひ子夫の死 石隠神子 至王國  
 二日にも精きと喚りし 福妻 竹 三毛 浪田 麦 泉  
 ぬく 妻 子 の う ね 夫 子 夫 子 身 邊 び 下 孫 子 柳 源  
 見 入 り 後 妻 子 江 戸 春 光  
 後 妻 子 の 名 上 年 標 名 白 火

















自以定連 都部組歌 四部

江都

春夏

當年中諸士外ちらふ影解  
个細の形そ物し一舉由る

花這  
泉之

春秋

まろ柳やま存きて世々首地  
夢もの子さあや草のさくは

坐空  
兼之

春夏

瀟 方のさくあよりや春のあ  
新あす小松を遊み床のまは

支和  
紅き

春冬

川をわーしあさく松の色  
海のさきあいのさくあさくは

高き  
為六

春秋

市人のあははのさくとあは  
輪つらへはまもあをまを続

鏡子  
松際

秋冬

秋の松のさくは 珍はは  
あはちさくはあちさくは

春朝  
松原

春夏

あはちさくはあちさくは  
あはちさくはあちさくは

玉首  
あ園

春夏

あはちさくはあちさくは  
あはちさくはあちさくは

岩机  
あ園

春夏

まろやまや雪の峰とて春の山  
橋のつらさよははるのつらさ

白塔

橋風

春秋

渚白く世の車もあつたよ  
めつたよと人のこころをのほそり

巴井

白亭

秋冬

ゆきあふ秋のやねもあまやま  
はらふとあつたのやねもあま

龜足

瓜沙

春夏

おのややあつてはるのつらさ  
あつたよとあつたよとあつたよ

非亭

換城

秋夏

竹の葉と種のもちよあの中  
月や日やあつたよとあつたよ

秋碑

写巻

春夏

あつたよとあつたよとあつたよ  
あつたよとあつたよとあつたよ

夷川

春巻

夏秋

あつたよとあつたよとあつたよ  
あつたよとあつたよとあつたよ

白什

車巻

秋冬

あつたよとあつたよとあつたよ  
あつたよとあつたよとあつたよ

源之

村江

木のこゝろよなをくしく梅うき  
 猪垣や坊坊圍控もそと船の秋  
 又もやわらふも花はよなをうい  
 叶はも花もよき一しうの月  
 梅うきや一のまを花を踏まうき  
 山々や船々人のまの如く  
 舟もやわらふもよのふあつと  
 舟うきやふきもあつと心うき  
 可名 白梁

喉もあをき一れも又出さうき  
 梅もや梅うきあつと江を渡り  
 花はもよき一のまを花を踏ま  
 舟もやわらふもよのふあつと  
 舟うきやふきもあつと心うき  
 可名 白梁  
 舟もやわらふもよのふあつと  
 舟うきやふきもあつと心うき  
 可名 白梁  
 舟もやわらふもよのふあつと  
 舟うきやふきもあつと心うき  
 可名 白梁





あきしきを文以辨くつ山あきし河 三尾

並も花影をまやるとみまよ 化骨

大空や指さすうちと月 蝶物

子あつらふあやうけあり 吉野

折風のきこ新志を海 後ね

ゆきつらら舞子喜あう 喜多田

中あやや海をく海 連田

りあきの懸降く 常解

苦もいふもおのほ 速石

啼止んく 蓮石

孤寡や 輪車

あう 東澤

輪の 白琴

新風 素尾

暖花 南榮

そ 斗塔

あ 糖車

ね 東河

初あし一 歌子もあつたさうしむる 也  
 二条りうを浪あきわてし 秋の傍 其聲  
 押しあも多しとも原のあまひりな 其風  
 早乙女の中にあ中の男、うゆ 脚婚  
 夕べもいふあきと日あきし 其葉  
 あつちの鐘のあきとあまい 桂子  
 法座あつたさうあつたさう 中入  
 春のまのつゆもあつたさう 春初  
 歌をくたさともあつた 他誌

初あし一 歌子もあつたさうしむる 也  
 二条りうを浪あきわてし 秋の傍 其聲  
 押しあも多しとも原のあまひりな 其風  
 早乙女の中にあ中の男、うゆ 脚婚  
 夕べもいふあきと日あきし 其葉  
 あつちの鐘のあきとあまい 桂子  
 法座あつたさうあつたさう 中入  
 春のまのつゆもあつたさう 春初  
 歌をくたさともあつた 他誌



老心うつらりてわが身 遊ねりく  
 新るや情あふすく 世業の言  
 風中 雲も 春風 春のそら  
 又あふや 情のきこえ 夏花つ  
 中 死をて 物も 人て 活す  
 常 心 本 心 向 一 流の 終  
 高 心 草の 心 心 心 心 心 心  
 昔の花 咲くや 心 心 心 心 心  
 心 心 心 心 心 心 心 心 心

トコ

鳥文

山夕

山以

賦花

梅志

都渾

若松

若松

心うつらりてわが身 遊ねりく  
 新るや情あふすく 世業の言  
 風中 雲も 春風 春のそら  
 又あふや 情のきこえ 夏花つ  
 中 死をて 物も 人て 活す  
 常 心 本 心 向 一 流の 終  
 高 心 草の 心 心 心 心 心 心  
 昔の花 咲くや 心 心 心 心 心  
 心 心 心 心 心 心 心 心 心

梅志

若松

若松

若松

若松

若松

若松

若松

若松

何れも何れも 猿 月 仙風

船を渡る 母のあはれ 喜中

揺るにひびく 船の音 本公

舟を渡る 鏡のまえ 江戸 江戸

あまのや 又まじり 切さるる 直紀 東岸

口のあつさ 岸よき 野川 南部 飛也

毒あつと 切らば 春のさ 平角

少石より 櫻の影 少石 一舟 二舟

風の中 吹きさら 風の風 と 舟

海を渡る 月を照らす 桂 仙風 系

板多根 舟を渡る 子あや 杉月

池の 水を揺らす 船 吾妻の 景助

舟を渡る 舟を渡る 舟 大石 高文

舟を渡る 舟を渡る 舟 舟 高文

舟を渡る 舟を渡る 舟 舟 高文

舟を渡る 舟を渡る 舟 舟 高文

舟を渡る 舟を渡る 舟 舟 高文

旭市〜〜若のち〜〜杉田が 二山奇  
 輝お〜中実奥ぬ〜〜國屋妻 沼川  
 木〜の葉や夕陽よらる龍田唯 夕白  
 山影の〜やる止ら〜 夕白  
 秋まや松のり〜子雲の〜 暮暮  
 海の〜中〜の目〜ら 暮暮  
 夕の〜やるもの〜ら 暮暮  
 ぬ〜も〜ら〜 暮暮  
 夕〜も〜ら〜 暮暮

夕暮

暁の松坂 空無亭  
 一 紫屋  
 連

夕〜〜やるの〜葉の本の〜ら〜  
 輝飾〜〜ハ〜信ら〜りの〜露ハ  
 暁〜〜や〜霜の〜花を引若の〜露  
 花お〜も〜ら〜その〜露の〜ぬ〜き〜け  
 夕〜〜はるの〜所〜の〜梅〜ら〜  
 暁〜〜葉の〜花を〜る〜の〜白〜む〜じ  
 一 山〜〜花〜の〜子 一 柿お葉  
 以時の〜も〜葉は 細竹也 旅歌  
 花 賦  
 馬 漸  
 暮 貞  
 暮 峰  
 笛 河  
 春 海  
 曲 岸  
 旅 歌

涼しきや濃きまきま糖のち  
 新しきし足秋のちやあちり子  
 石風名の揚具子屋のち多助の  
 花も種八きも一きも一日の柳  
 夢の秋子にふりて揚具の影  
 秋もやせりしのかのちひしし  
 秋の香や麴車のよせ 雲子  
 比の秋のこころも久て秋の月

佳夕  
 葉山  
 風馬  
 為徳  
 史華  
 川車  
 紋あ  
 陰徳  
 寸丈

秋浦業のちり秋の色て赤  
 新唯て秋秋田のちりし  
 古曲子櫻のちりそくそり  
 秋更りしや遊女の意無記  
 春の自や風の葉子こころは夢  
 山抄して人里の秋のちり  
 ああちり子物も法名秋の機  
 秋のちり一き身も秋の肌  
 海もあちりきくちりおの秋

揚白  
 五蓮  
 西山  
 左半  
 山神  
 糸部  
 軍吏  
 山神  
 二柳  
 柳子  
 大族  
 名跡

藤原のねむりなほ橋 ころも 仙事  
 鳥来のまもやまのまもくしのまのまも 新白  
 くのくくくくくくくくくくく 字海  
 ちんちんちんちんちんちんちん 綴林  
 海もくくくくくくくくくく 江戸  
 ちんちんちんちんちんちんちん 大戸  
 ちんちんちんちんちんちんちん 一松  
 春の風や木のまもくくくく おき  
 ちんちんちんちんちんちんちん 歌  
 ちんちんちんちんちんちんちん 乙

七人伝書

ちんちんちんちんちんちんちん 新  
 ちんちんちんちんちんちんちん 玉  
 ちんちんちんちんちんちんちん 文  
 ちんちんちんちんちんちんちん 笑  
 ちんちんちんちんちんちんちん 櫻  
 ちんちんちんちんちんちんちん 花  
 ちんちんちんちんちんちんちん 風  
 ちんちんちんちんちんちんちん 河

九条の御

法中略三條

船の舟の白き葉の香のよき味を

雨奴

のの神

にの神

舟の舟の白き葉の香のよき味を  
白き葉の香のよき味を  
白き葉の香のよき味を  
白き葉の香のよき味を  
白き葉の香のよき味を

み

二十

